

一 般 質 問

市政全般の問題をただす一般質問は、12月7日、10日、11日に行われ、12人の議員が64項目に及ぶ質問をしました。その主なものは次のとおりです。

市民病院運営の決断を

質問

〔外山議員〕市民病院の現在の累積赤字は28億9千万円で、今年度は8億5千万円、来年度は9億5千万円の赤字が見込まれている。今年度に限って言えば、1日約233万円の赤字が累積していく計算だ。もし、来年1年猶予を見るということになる、少なくとも50億円近い累積赤字になり、すぐに手を打たないとさらなる借金を背負うことになる。しかし、市民病院は必要であり、公設民営として存続させるべきと考えるが、市長の最高執行者としての決断をお伺いする。

答弁

〔市長〕これまで、市民病院については、検討委員会や評価委員会、運営審議会から答申がなされ、今定例会には議会の特別委員会の報告がある。これらのご意見や市民アンケート等を総括しながら判断してまいりたい。その中で、市民病

院の職員38名を任用がえし、看護師については市民の健康のために対応してもらおう。また、来年の4月からは、医師が7名体制になるが、その7名体制にあつた組織づくりを進めてまいりたい。19年度の赤字はすでに進行中であり、20年度の赤字については、できるだけ小さくする努力をしてまいりたい。



市民病院に関する特別委員会

高齢者のインフルエンザ予防接種補助引き上げを

質問

〔鈴木議員〕65歳以上のお年寄りにはそれぞれ各自自治体

で、インフルエンザの予防接種に対する補助を出しており、千円しか補助をしていないのは、本市と守谷市だけである。高齢者になるとインフルエンザにかかりやすく、かかってから国民健康保険で治療するとそれだけ医療費の給付がふえる。国保財政が大変だと言うならば、逆に補助をふやしてお年寄りが安心して予防接種を受けられるようにすればよい。なぜ、財政が厳しいからという理由で、補助を切り捨ててしまうのか。



答弁

〔保健福祉部長〕流行前のワクチン接種は大きな予防の1つとされていることから、各市町村においても予防接種に係る補助を実施している。本市においても千円の補助を実施しているが、他市に比べると確かに低い金額になっている。しかし、昨年度においての当市の接種率は、県内でも上位に位置している。今後も引き続きインフルエンザ予防を図るための広報活動等や啓発

活動を積極的に行い、接種率が低下することのないように、また早い機会に少しでも増額が図れるように努めてまいりたいので、ご理解とご支援をお願いしたい。

財源確保と住民サービスの工夫は

質問

〔尾木議員〕①県内で最も財力は、財源確保のためにどのような努力をしているのか。②非常事態の時にあり、徹底した財政の見直しをしなければならぬ。財源確保のために支出を抑えるということであれば、例えば、美術館の企画展などは開催しなくても使命がなくなるわけではないと思う。住民サービスの部分を市長はどのように考えているのか。

答弁

〔企画部長〕①予算編成に当たり、積極的な収入の確保に努めている。国県の補助金だけでなく、外郭団体の助成制度の活用も積極的にし、今回、民間都市開発推進機構から5千万円の拠出を受けることができた。②新たな歳入財源の確保、歳出の削減の中で生み出した財源をどこに振り分けて活用していくか、予算づけの中で検討させていただきたい。

〔市長〕①財源確保策としては、税等

の収納率の向上、使用料の見直しによる増収策等がある。財政健全化計画を基本として、強化見直しを進めてまいりたい。②地方自治体を取りまく環境は非常に厳しい。そのような中でも、めり張りは大事であると思うのでご理解賜りたい。



しもだて美術館企画展

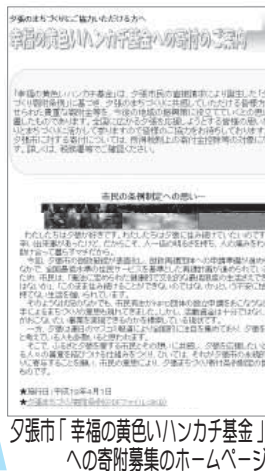
寄附金を基金に積み立て、各団体に助成を

質問

【宮崎議員】夕張市には、市復興のための「幸福の黄色いハシカチ基金」というものがあり、ホームページを使って日本全国、世界各国に寄附を募り、基金に積み立てている。これを、市内の各団体が使いたいと申請すると、審議会が団体を選定し、金額を決定するものである。今回、本市も同様に寄附金を基金として積み立てる条例改正案が提出されているが、審議会の委員構成や補助対象団体、寄附金の額など、内容について詳しく伺いたい。

答弁

【企画部長】市では、市民や企業からいただいた寄附金は、寄附の目的に沿って基金に積み立て、必要に応じて事業に充当している。本年度は国の外郭団体である民間都市開発推進機構の「住民参加型まちづくりファンド支援事業」により、5千万円の拠出が受けられることになり、地域づくり振興基金に積み立てる。それを活用して事業を行うため、今年度必要な準備を行い、20年度からは5千万円と市民や企業からの寄附を原資として、市民活動団体に助成してまいりたい。また、審議会の委員は、市民の方にも入っていただき、10人程度を考えている。補助対象となる事業枠は設けていきたいが、寄附を募るに当たっての金額の枠は考えていない。



夕張市「幸福の黄色いハシカチ基金」への寄附募集のホームページ

質の高いランドセルの配布を

質問

【三浦議員】今年度配布されたランドセルは旧3町で配布していたものの半額で、本皮製から人工皮革に切りかえて、全市に普及

させた。このランドセルの使用率は、下館地区が74・6%、明野地区が71・3%、関城地区が99・3%、協和地区が92%で全体では79・7%である。このままでは、使用率がだんだん下がり、何十年と続いてきた旧3町の伝統が崩されてしまう。これは合併のよしあしを判断する目玉である。ランドセルが使われない理由が質が落ちたからであり、質を上げれば皆に喜ばれ、どんどん使われるようになる。そうすれば生きた金になる。本革製に戻すべきと考えるがどうか。



今年度配布されたランドセル

答弁

【教育次長】ランドセルの質については、本革製よりも軽量で防水性にすぐれ、価格的にも廉価な合成皮革を使用している。合併前の旧明野町、旧協和町で配布していたランドセルも合成皮革のものであった。こういったことから、特にランドセルの質に関して問題はないものと考えている。来年度4月の入

妊産婦健診無料化の拡充を

質問

【加茂議員】妊産婦健診について、国は経済的理由で健診を受けられないことはあつてはならないとして、自治体に対し、公費負担を広げる通達を出した。すでに財政措置を行い、受診回数の公費負担も14回程度が望ましいとし、最低5回は必要としている。本市の公費負担の回数は現在2回だが、これを何回まで引き上げられるのか。また、お産のために里帰りする県外利用者に対し、検診結果と領収書があれば公費負担するところもあると思うが、本市はどうか。

答弁

【保健福祉部長】妊産婦健診の回数については、財政的な問題もあるが、ご指摘のような状況を十分認識するとともに、県内自治体の動向などを踏まえ、平成20年度予算編成においては、最低限の5回の健診を確保できるよう調整してまいりたい。また、里帰り先での受診については、現在本市においては、本人からの申し出により、随時

受診先である医療機関との契約を行い、受診が可能となるような方法で実施している。今後も妊婦等がどこにおいても安心して受診ができるよう、この施策等については継続してまいりたい。



元気に産まれた赤ちゃん

ランドセル配布事業と 下館小の黒板修繕について

質問

【内田議員】①今年度配布したランドセルは、質が悪いために不評で、使用率が落ちています。質を上げられないのであれば、市内の商店のみで使える商品券等にしてはどうか。二宮尊徳の思想にある「廻村」という現場主義に習い、保護者の声をもう一度聞くようにしてほしい。②下館小の黒板が真っ白で、字が見えないという声が子供たちから上がっている。学校からは修繕の要望を出したが、予算が削られてしまったとのことだ。その経過について

て尋ねたい。



下館小の黒板

答弁

【教育次長】①現在約8割近頃の児童が、配布したランドセルを使用している状況や、来年度の入学児童の95・4%の方が希望していることなどを踏まえると、ランドセルの現物配布を実施していく必要があると考える。今後は保護者へのアンケート等を実施し、検討してまいりたい。②下館小の黒板は、18年度に修繕の要望があり、特に傷みがひどい普通教室3力所の黒板を張りかえている。各学校からは、毎年多くの修繕要望があるが、財政面からもすべてにこたえることは不可能であり、現場を確認し、優先度、緊急度を考慮して、できるだけ要望にこたえられるよう努力してまいりたい。

節水こまの使用で 公共施設の節水を

質問

【真次議員】今、地球温暖化対策が叫ばれており、その中で節水もエネルギー使用量の削減にな

る。公共施設においても節水対策をすることで、上下水道料金が削減でき、またエネルギーの軽減にもつながる。土浦市は、平成12年から蛇口に節水こまを取りつける等の節減対策を実施し、23・4%の節約ができたという。節水こまで15%節約できるとのこと、本市の10月の上下水道費は925万円以上であり、月に138万円の節約になる。本市もぜひ取り組むべきではないか。



節水こま

答弁

【総務部長】本市では平成19年に地球温暖化対策実行計画を策定し、この計画の中で水資源の対策について明記されている。具体的対策として、本庁では給湯室や一部トイレに節水を促す掲示をしている。また、関城支所では女子トイレに擬音装置を設置し、明野支所では調整ネジにより節水の努力をしている。学校についても節水を促す掲示をしているとのことである。今後は、すべての公共施設等において節

水を促す掲示を行い、ご提言の節水こまの使用や蛇口を小まめに閉めるなど、節水に心がけるよう職員に呼びかけてまいりたい。

公設民営で医師確保問題の 早期解決を

質問

【須藤議員】市民病院の経営に関しては、多くの市民が存続を希望している。しかし、現在のままでの経営は困難であると理解している。中でも医師確保の問題は最大である。この最大の課題を即解消できるのは、私が5年前から一貫して主張している公設民営である。この公設民営についてどう考えるか尋ねたい。また、現在の市民病院の医師確保の状況や職員の教育、接遇についてもあわせて尋ねたい。

答弁

【市民病院事務部長】医師の確保については、現在までに眼科医4名、内科医2名、小児科医1名の計7名の非常勤医師の確保ができています。当面は非常勤医師による外来診療の継続を確保していかなくてはならないが、常勤医師の確保が最大の重要事項であるので、引き続き各方面に働きかけをしてまいりたい。職員の教育については、医療安全対策委員会を中心に医療事故防止に努めている。接遇に関しても、たった一人の評価が病院全体の評価

にもつながることから、一人一人にきめ細やかな接遇教育をしてまいりたい。公設民営については、現在の状況と医師が充足している公設民営との比較では、公設民営の方が住民にとってはよい方向だと考えられるが、今後上司の指示を仰ぎ早急に方針を定めてまいりたい。



市民病院待合室

市民病院の存続で 市民に安心を

質問

【藤川議員】命の安全を守るということとは最大の市民サービスであり、税金を払ってでも市民病院を存続させたいという市民もいる。肺炎や盲腸など大病院では対応してもらえないときの受け皿として、また末期がんの在宅ケアとして地域の核となる市民病院はやはり必要である。生涯にわたり、本市で安心して暮らしていけるかどうかが問われている。市民だれもが安心して市民病院にかかりたいと思えるような病院にするためにも、今はその信頼をつくるのが一番の課題であると思うが、行政はどう取り組むのか。

答弁

【市民病院事務部長】ご指摘のように、市民から負担をいただく、病院を何とか維持していくとの提案は現場としてもありがたいことである。しかし、今、我々がなすべきことは、医師確保と経営改善に全力を尽くすということであると考ええる。各方面からいただいたご意見を総合的に判断し、住民の方々のために、どのような形が一番病院としてよい形なのかを検討させていただきたい。



市民病院

積極的な大学新設の推進を

質問

【榎戸議員】大学誘致については、平成18年5月に1回目の推進協議会を開催して以降、今日まで開催されずに至っている。もっと広い分野から委員をお願いして、誘致促進のための協議会を断続的に

行うことも大きな力になるのではないかと。大学新設ははかり知れない経済効果があると言うが、本当に我がまちに大学が必要だということを行動で示していただきたい。



12月に開催されたつくば薬科大学早期開学推進協議会

答弁

【市長公室長】薬科大学新設については、大学側の準備室から開学の目標を平成21年4月にするのと伺っており、平成20年3月か4月には文科省へ認可申請をする必要があるとのことである。その前に、大学側の準備室に対し、改めて本市に本部を置いていただきたいというお願いをする必要がある。また、議会の決議や下館商工会議所からの要望もある。これらのことから、新たに「つくば薬科大学早期開学推進協議会」という組織づくりを進めているところである。

【市長】先般、県知事等に積極的な支援をお願いをし、県でもできるだけ支援をするとの話をいただいている。推進協議会の活動を積極的に進め、一日も早く本市に薬科大学がで

きるよう、できる限り市としても支援してまいりたい。

地域の2次医療機関のネットワーク化と 夜間休日1次救急診療を市民病院で

質問

【百目鬼議員】市民病院の人員費は90%近くで、運営形態を変えてもこの人員費は残る。また、ベッド数を60床に減らすという。そこで、市民病院の診療科を特化し、この地域の2次医療機関とネットワークを組んではどうか。そうすることで、看護師などの人的交流をし、県や地元医師会とも連携をとりながら、地域の医療を守ってほしい。また、夜間休日1次救急診療所を市民病院に移し、あいたベッドをオープンベッドとして地元の医師に診てもらってはどうか。



夜間休日1次救急診療所（下館保健センター内）

答弁

【市民病院事務部長】これまで、地元医師会とは緊密に連携を図ってきた。また、8月に筑西保健所主催により、病院等関係機関

議会日誌



10月

25日～26日

建設委員会行財政研修視察

29日 筑西市財政等健全化調査特別委員会

31日 第2回筑西広域市町村圏事務組合議会定例会

11月

6日～7日

民生文教委員会行財政研修視察

経済開発委員会行財政研修視察

8日 県市議会議長会議員研修会

12日 筑西市財政等健全化調査特別委員会

15日 筑西市民病院に関する特別委員会

21日 筑西市民病院に関する特別委員会

27日 筑西市財政等健全化調査特別委員会

30日 議会運営委員会

12月

5日～17日

筑西市議会第4回定例会

19日 広報特別委員会

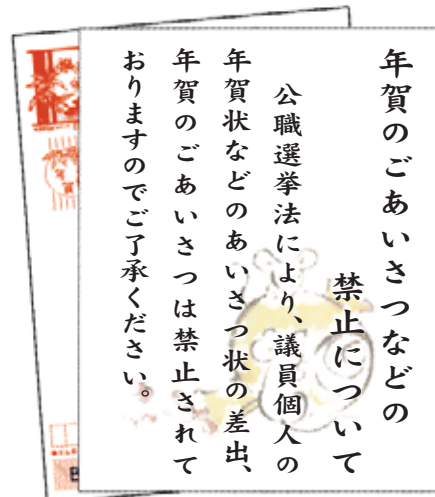
1月

8日 広報特別委員会

17日 筑西市財政等健全化調査特別委員会

の円滑な連携体制を推進するため、筑西広域管内救急等連携意見交換会が開催された。今後もこのような県・広域での検討の機会をお願いしてまいりたい。

【市長】夜間休日1次救急診療の件は、検討させていただきたいと思う。しかし、今、それを市民病院に移すことで、新しい運営形態を決定する際にネックになってしまうような部分が、万が一あると困ることもあるので、ご理解賜りたい。



行政視察来市

本市の行財政調査のため、次の議員が来庁されました。

○11月13日

愛知県知多市議会（12名）

▼あけの元気館の取り組みについて

編集後記



昨年の世相をあらわす漢字は「偽」。2位以下も、食、嘘、疑など不信を示す言葉が目立ちました。ミンチ偽装、白い恋人、赤福、船場吉兆、不二家・・・身近な食への信頼を揺るがす偽装が発覚し、年金記録、政治資金・公約をめぐっても「偽」を反映していました。揮毫された「偽」は、清水寺に奉納され、清められるとのこと。また、昨年の流行語大賞候補にも、食品偽装、消えた年金、産む機械、ネットカフェ難民、事務所費など、時代錯誤、そご、欺瞞など世相を反映した言葉が数多くノミネートされました。半面、どげんかせんといかん、ハニカミ王子、鈍感力など、勇気づける言葉のノミネートが少なかつたようです。今年はオリン

【広報特別委員会】

委員長 須藤 茂
副委員長 水越 照子
委員 吉原 一利
百目鬼 晋
水柿 一俊
外山 壽彦
加茂 幸恵
新井 利平
榎戸 甲子夫
秋山 恵一
片平 忠行

筑西市議会事務局

筑西市下中山732-1

☎ 24-21111（内372）

次の定例会は

3月5日

に開会の予定です。

～あなたも傍聴してみませんか～

議会の放映は、市役所本庁舎
1階エントランスホール、4階
議場前ホールでご覧になれます。